



Uターン

むつ市→東京都→青森市

室舘 義孝さん
合同会社 M's style
(学習塾)

2021年11月創業

Case 05

青森を変えたいなら まずは進学率を上げないと。

都内大手進学塾に勤めていた室舘さん。青森県の抱える課題を解決するためには、次世代の進学率向上が不可欠という思いから、青森市でICTを活用した学習塾を創業した。

ICTを組み合わせた 学習方法

青森市内で小中高生を対象にした学習塾「次世代学習塾 M's style」を創業した室舘義孝さん。対面授業に加えてICTツールを活用したオンライン授業を実施し、通塾が難しい遠方の生徒にも対応している。紙と動画が連動する最新の教材を使い、タブレットやモニターを併用することで図形の展開なども視覚的に理解が進む。また、料金定額の通り放題プランを作り、授業がない日も自由に集まって勉強できるようにした。

「特に小学生は自学力を身につ

ける大切な時期。自宅学習が苦手な子にとっては、ここに来ることで勉強スイッチが入るようにする狙いがある」

地域の特性に合った アプローチ

都内の進学塾を退職した室舘さんが、妻の実家がある青森市へ移住したのは2021年。学習塾の創業を決めてその年に相談した先は、あおもりスタートアップセンター（あおスタ）だった。室舘さんは同センターから出た最初の創業者。事業を始めるにあたり、心を砕いたのは生徒集めだった。

「インターネットより近隣のポ

利用者が通うサービスの場合、ローカルコミュニティの影響力が大きかった。最初の数人が通い始めると、口コミで生徒が生徒を連れてくるようになった。東京ではあまり考えられない青森の特性だという。評判を保つには丁寧な対応はもちろんだが、最も重要なのは結果を出せること。塾経営は、出資者が親で利用者が子というビジネスモデルのため、双方の希望通りの成果へ導いてあげることが顧客満足度向上につながる。

東京の経験を 青森で活かす

最初は融資を受けず自己資金

ニーズを柔軟に取り入れる



生徒の注意を引きつける熱量のある授業。対面と同時に動画での配信も行っている

だけで始めるつもりだった室舘さんだが、支援担当者と話を重ねるうちに、融資を受けることにした。「おかげでモニターやタブレットなど、学習機材が充実した状態でスタートが切れた」
コロナ禍もあり、デジタルを組み合わせた授業は追い風となる。着実に生徒数が増え、新しい講師を雇うことにした。個別指導や生徒が希望する授業だけを選択できるという学習プランを増やしたことも、生徒数が増えた一

因になっている。今後は浪人生向けプランの新設に加え、他のエリアにも教室を増やしていきたいという。
「雇用や経済など、青森県が長年抱える課題を根本から解決するには学力の底上げと進学率の向上が不可欠」
競合ひしめく東京で指導してきた経験を青森のために活かす。「今はオンラインでできることも増えた。専門分野を持っている人は今やっている仕事を青森で活用

室舘さんの創業まで

2020年
退職

2021年
青森市へ移住

10月
あおスタに相談

11月
M's style 創業

2022年7月
移転オープン

支援機関担当からの一言

室舘さんは、東京での塾講師の経験・ノウハウがあり、青森のニーズにアレンジした塾を創業しています。当初は少ない予算での創業を考えていましたが、室舘さんのポテンシャルを考えればと、銀行からの融資を相談しました。過去の経験と、地域の特性の両方を考えたサービス提供が大切だと思います。

する方法を見つけてほしい」
失敗を恐れずに挑戦して、と未来の創業者へメッセージをくれた。



合同会社 M's style

<https://ms-style.ivalue.info/>